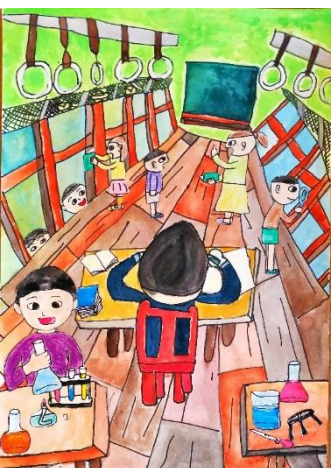


令和元年度
日南市読書感想文・読書感想画
コンクール入賞作品集
第11集



主催 日南市教育委員会
協賛 株式会社二千ワ

はじめに

日南市第十一回読書感想文・読書感想画コンクールに応募してくれた児童・生徒のみなさん、本当にありがとうございました。

このコンクールは、本を読んだから、感想文・感想画を書きなさいというものではありません。感想文や感想画には不思議な力があります。

本は、私たちの心からいろいろな感情や考え方を引出してくれます。その感じ方を感想文や感想画で表現することは、自分の心をきちんと整理することなのです。そうすると「私は、今までこんなふうを考えていたんだ。」「これからはこういうふうに行動したい。」と、今まで気づかなかった自分に出会うことができます。これを成長と言います。感想文や感想画には自分を育てる力があるのです。

このコンクールとおして、みなさんが大切な本と出会い、健やかに成長することを心から願います。

終わりに、本コンクールを実施するにあたり、御協賛いただきました株式会社ニチワ様をはじめ、指導及び審査に際して多大な御尽力をいただきました学校教諭の皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

読書感想文コンクール目次

【小学校一年生の部】

- 金賞 いっさいはん
山田 珠緒里（飢肥小学校）・・・ 8
- 銀賞 心ってどこにあるのでしょうか？
岩下 愛佳（吾田小学校）・・・ 10
- 銅賞 ママが10にん！？
丸太 大地（桜ヶ丘小学校）・・・ 11

【小学校二年生の部】

- 金賞 小学生まじよとおしゃべりなランドセル
笠 美彩都（桜ヶ丘小学校）・・・ 12
- 銀賞 こびとのくつや
重留 心音（吾田東小学校）・・・ 14
- 銅賞 二年二組のたからばこ
黒木 祐玖（吾田東小学校）・・・ 15

【小学校三年生の部】

- 金賞 ねだんのつかない子犬 きららのいのち
佐原 苺果（飢肥小学校）・・・ 16
- 銀賞 かあちゃん取扱説明書
後藤 大智（吾田東小学校）・・・ 18
- 銅賞 お昼の放送の時間です
荒武 凜（吾田東小学校）・・・ 20

【小学校四年生の部】

- 金賞 ホームランを打ったことのない君に
肥田 康佑（油津小学校）・・・ 24
- 銀賞 チャーリー・ブラウンなぜなんだい？
杉田 竜馬（大窪小学校）・・・ 26
- 銅賞 クジラのおなかからプラスチック
森 柚奈（大堂津小学校）・・・ 28

【小学校五年生の部】

金賞 もうひとつの屋久島から

瀬戸山 璃音（飢肥小学校）・・・ 31

銀賞 これ、ぼくの宝物です

山村 美結（吾田小学校）・・・ 33

銅賞 転んでも、大丈夫

黒木 蘭夏（吾田東小学校）・・・ 35

【小学校六年生の部】

金賞 ありがとう、フォルカーせんせい

榎木 彩晴（吾田東小学校）・・・ 38

銀賞 二日月

大迫 美友（鵜戸小学校）・・・ 40

銅賞 街のいのち

多田 美有（大堂津小学校）・・・ 42

【中学校の部】

金賞 スギ林はじやまものか

森 亜美佳（飢肥中学校一年生）・・・ 45

銀賞 獣の奏者

小林 暖佳（東郷中学校一年生）・・・ 48

銅賞 君の臍臓をたべたい

渡辺 美羽

（日南学園中学校一年生）・・・ 51

【読書感想文入選作品名一覧】・・・ 55

読書感想画コンクール目次

【小学校一年生の部】

| | | |
|----|------------------|----|
| 金賞 | そらの100かいだてのいえ | |
| | 外山 華妃(鶴戸小学校)・・・ | 58 |
| 銀賞 | シロクマのしゆくだい | |
| | 日高 悠李(大堂津小学校)・・・ | 58 |
| 銅賞 | オバケカレー | |
| | 柴田 健登(飩肥小学校)・・・ | 58 |

【小学校二年生の部】

| | | |
|----|----------------------|----|
| 金賞 | 山田県立山田小学校山田山でサバイバル!? | |
| | 小村 峻太郎(吾田小学校)・・・ | 59 |
| 銀賞 | はこぶ | |
| | 長友 憲斗(鶴戸小学校)・・・ | 59 |
| 銅賞 | としよかんライオン | |
| | 中津 凜星(北郷小学校)・・・ | 59 |

【小学校三年生の部】

| | | |
|----|------------------|----|
| 金賞 | くものすおやぶんほとけのさばき | |
| | 柴田 陽登(飩肥小学校)・・・ | 60 |
| 銀賞 | なんにでもレナール! | |
| | 池田 柚希(東郷小学校)・・・ | 60 |
| 銅賞 | ねこまつりのしょうたいじょう | |
| | 後藤 大智(吾田東小学校)・・・ | 60 |

【小学校四年生の部】

| | | |
|----|-----------------|----|
| 金賞 | ウエン王子とトラ | |
| | 中津 勇仁(北郷小学校)・・・ | 61 |
| 銀賞 | メン!出合いの剣 | |
| | 吉永 彩乃(吾田小学校)・・・ | 61 |
| 銅賞 | まほうの自由研究 | |
| | 上野 紗彩(吾田小学校)・・・ | 61 |

【小学校五年生の部】

金賞 オバケたんてい

穂森 泰斗（鶴戸小学校）・・・62

銀賞 100年たったら

新坂 妃莉（鶴戸小学校）・・・62

銅賞 「水辺の楽校」の所くん

川越 葵生（飢肥小学校）・・・62

【小学校六年生の部】

金賞 ひだまり

松山 ひかる（飢肥小学校）・・・63

銀賞 いわたくんちのおばあちゃん

川口 晴瑠（油津小学校）・・・63

銅賞 月夜のでんしんばしら

肥田 健吾（油津小学校）・・・63

【読書感想画入選作品名一覧】・・・64

【読書感想画の審査を終えて】・・・65

【審査員氏名一覧】・・・66

讀
書
感
想
文
入
賞
作
品

『小学校一年生の部』

【金賞】

いっさいはん

桜ヶ丘小学校 山田 珠緒里

《講評》

本が大好きで楽しそうに読んでいる様子が想像できました。特に、思ったこと、感じたことをすなおに自分の言葉で表現できているのが、すばらしいと思います。これからもいろんな本を読んでいっばいいろんな事を感じられるといいですね。

「クッククックク。ギャハハハハハ。」
ここは、はいしゃさんのまちあいしつです。しずかにまつことは、いつもおかあさんとやくそくしていることです。でも、きょうはそれができないのです。

ほんをよむことがだいすきなわたしは、いつものようにほんだなへいききました。そこで、「いっさいはん」というほんをみつけました。「あっ、わたしのいもうととおなじだ。」とおもってよんでみる

ことにしました。

このほんのいっさいはんのこは、ずっとやりた
いほうだいです。でも、わざとではないし、どれ
もしんけんです。

わたしがこえをだしてわらってしまったところ
は、「くちのなかにごはんをいっぱいつめてくしゃ
みをする」というところです。わたしのいもうと
もよくします。そのときは、みんなでわらいなが
らひろいます。あちこちにとんでいるので、すこ
しいへんです。

ほかに、「おかあさんのひざからとつぜんたち
あがってあたまをぶつける」というところで、「ケ
ラケラ」とわらってしまいました。これも、いも
うとがよくします。えほんのこはないでいたけ
ど、いもうとはわらいながら、つぎのおもちの

ところへはしっていきます。わたしは、「だいじょ
うぶかな。」とおもっておかあさんをみます。おか
あさんも、すこしいたそうにしなからわらってい
ます。

「ああ、おもしろかった。」と、ほんをとじる
と、おかあさんがわらいながら、「あなたもそうだ
ったのよ。」とおしえてくれました。

えほんのようにおとうさんとおかあさんにたく
さんおせわをしてもらいながらおおきくなってい
るのだとおもいました。すると、なんだかこころ
がポカポカとあたたかくなってうれしいきもちに
なりました。そして、いもうとのおせわをもっと
がんばろうとおもいました。

【銀賞】

心ってどこにあるのでしょうか？

吾田小学校 岩下 愛佳

わたしは、いままでこころがどこにあるかかんがえたことがありませんでした。こころてなんだろうとおもいました。

ハウステンボスで、よるふねにのったとき、たてものがみどり、むらさき、みずいろ、おれんじなどにひかってきれいでした。

「すごい！」

とおおきなこえでいいました。これってこころなのか？わからない。じてんしゃにはじめてのれたときかぜがあたってきもちがよかった。これっ

てこころなのか？わからない。たぬきは、いやなことがあるとおなかがいたくなります。でもわたしは、くずししよぎでまけそうになったときなきました。これってこころなのか？わからない。おとうとのそらちゃんがゆびをかんだとき、いたかったけどおこりませんでした。これってこころなのか？わからない。

こころってわからないけど、くやしかったり、うれしかったり、たのしかったりしていろいろなきもちになるからこころってすごい。

【銅賞】

ママが10にん!?

吾田小学校 丸太 大地

ぼくが「ママが10にん」をよもうとおもったのは、たいとるにびっくりしたからです。このよに、ほんとうに「ママが10にん」もいたら、ぼくはひっくりかえって、きぜつをするとおもいます。10にんもママがいたら、どうやってねればいいのかわかりません。このほんでは、1ばんめのママは、ひぎにのせてくれるママ。2ばんめは、えほんをよんでくれるママ。3ばんめは、うたをうたってくれるママ。4ばんめは、あかちゃんとおそんでるママ。5ばんめは、おかしをやい

てくれるママ。6ばんめは、メガジャイアンをくみたててくれるママ。7ばんめは、かわいくて、8ばんめは、かっこよくおしごととして。9ばんめは、ゆうえんちののりものによしよののってくれる。10ばんめは、ぐうたらママでした。ぼくのおかあさんは、5ばんめのママみたいに、おかしをやいてくれます。ぼくは、10にんもママはいりません。ぼくのおかあさんひとりだけでいいとおもいました。でも、ママはおしごとがいそがしくて10にんいてもたりないぐらいたいへんだなど、ほんをよんでもおもいました。ぼくはこんど、おかあさんのおてつだいをして、すこしやすませてあげようとおもいました。

『小学校二年生の部』

【金賞】

小学生まじよとおしゃべりなランドセル

桜ヶ丘小学校 笠 美彩都

《講評》

話のあらすじをしようかいするだけでなく自分が考えたこと、思ったことがしっかりとした文章で書かれていました。自分だったらこうするの
に、こうしたかな、という今までの生活や体験と結びつけて書くことができているのもすばらしかったです。

「あなたも、夏休みたいくつだったの。」

この本を読み終わった時、わたしのランドセルに聞いてみました。すると、

「たいくつだったよ。」

と、言った気がしました。

このお話は、小学生のリリコと、おしゃべりなランドセルのお話です。夏休みでどこにも行けずに、たいくつなランドセルは、シヨッピングセンターにからって行ってもらいました。そこで、いろんなことがおこりました。

一ばんびっくりしたのは、リリコがけいくんたちにかかわれた時、ランドセルがたすけてくれた場めんです。リリコの中から外れて、ふたをパカパカさせて、けいくんたち

におそいかかりました。びっくりしたけいくんたちは、にげて行きました。わたしがお母さんにおこられている時、たすけに来てほしいな、と、つい思っちゃいました。

リリコがどうぶつたちにランドセルをかしてあげた場めんは、リリコも、どうぶつたちも、ランドセルもみんな楽しそうでした。夏休みでたいくつしていたランドセルは、みんなのランドセルになって、たいくつではなくなりました。みんなが楽しそうで、読んでもわたしまで、何だかしあわせな気もちになりました。

わたしのランドセルは、おじいちゃんとおばあちゃんが、買ってくれました。たくさんの色の中からモカブラウンをえらびました。

入学してからまい日いっしょで、じゅぎょう中はっぴょうしているところも、友だちとおしゃべりしているところも、帰り道友だちと

じゃんけんしているところも、全ぶ見られてたんだなど、ちょっとはずかしくなりました。

「わたしのランドセルさん、いつもおもいにもつをもってくれてありがとう。後四年かんいっしょにがんばろうね。ずっといっしょだよ。これからもよろしくね。」

【銀賞】

こびどのくつや

吾田東小学校 重留 心音

「こびどのくつや。」って、どことなくつやさんなんだらうと思って、この本を読みはじめました。

わたしが一ばん心にのこったのは、お金がなくてこまっていたのをたすけてくれたおれいにおじいさんとおばあさんが、こびとたちをよろこばせるさくせんをしたところが好きです。おばあさんは、こびとのふくが、ポロポロだったのに気づいてこびとサイズの小さなふくとくつを二人でいっしょうけんめいつくってあげました。おれいの気もちがったわっておたがいうれしい気もちにな

れたので、

心がぼかばかしました。こびとがかわいいようふくをきてよろこんでいたのでわたしもいっしょにうれしくなりました。それからこびとたちは、すがたをみせなくなってしまうけどこびとたちは、は、こんなすてきなようふくやくつをつくれるおじいさんおばあさんだから、あんしんしてどこかの森にあそびにいったんだと思いました。おじいさんとおばあさんは、さびしいけど二人のこびとのことをわすれずにいっしょうけんめいくつをつくりつづけたと思います。このおはなしを読んでわたしもおれいの気もちをたいせつにしたいなあと思いました。

【銅賞】

二年二組のたからばこ

吾田東小学校 黒木 祐玖

「二年二組のたからばこ」というだい名をみて
ぼくと同じクラスにどんなたからばこが

あるのだろうと思い、この本を読みはじめまし
た。

たからばこは、たからくんのたくさんのおとし
ものを入れるために先生がつくってくれたはこで
す。

ぼくも、たくさんあそんだときなふだやティッ
シュをおとすことがあります。女の子たちは、「も
のを大せつにしないからおとすんだ。」と言ったけ

ど、ぼくは、大せつにしてもおとすことはあ
るとおもいました。ぜったいにおとすはいけな
いと思っけていてもおとしてしまったことがあるか
らです。

たからくんは、自分のもちものに名前をかい
大せつにしていたので、たからばこは、
やっぱりたからくんのたからのはこだと思いまし
た。

ぼくも、気をつけても、大せつにしても、
おとしたりなくしたりしてしまうのもっときを
つけて自分のものをかん理すること
を心がけます。

『小学校三年生の部』

【金賞】

ねだんのつかない子犬、きららのいのち

飢肥小学校 佐原 莓果

《講評》

自分と関わりのある身近な存在をテーマに選書されてきました。

登場人物等をとおして、素直に自分の姿を見つめ考え、自分のことばでよりよく生きていきたいという願いが書かれていました。

わたしは、「ねだんのつかない子犬きららのいのち」という本をえらびました。

この本のしゅじん公は、きららです。きららは、ミックス犬で大きな丸いシッポがじまんです。

わたしは、表紙のきららのねているすがたがとてもかわいく、自分も犬をかわっているからかっている犬とにているところやちがうところはあるかなと思いきこの本を読もうと思いました。

すてられたきららが、ほけん所のくらしい部屋に

入れられてしまったのを出してくれたのが「母ちゃん」今のかいぬしさんです。きららは母ちゃんと一緒にびょういんに行ったり、さんぽに行ったりいろいろなけいけんをしています。

この本では、かいぬしの母ちゃんと、きららが会話をしているように書いてあるところが、とてもふしぎに思いました。犬は、思っていることを言葉にできないのに母ちゃんはきららの気持ちが分かり、本当におしゃべりをしているようでした。

わたしは、このお話を読んできららのいのちが0円だったことに、とてもおどろきました。なぜならペットショップやブリーダーなどで売られている犬は十数万円から高い犬では百万円もする犬が

いるのに、きららのいのちは0円だったからです。きららにとってもショックだったようです。私も犬のしゅるいによって、ねだんのちがいがすぐくあるんだなとおどろきました。

きららがお母さん犬ときょうだい犬のマルと一緒にかいぬしさんにすてられたところでは、私はすてられたらどうなるんだろう、ほけん所の人につかまったらこれからどうなるんだろうときららの気持ちになって考えてみたら私のしんぞうはとてもドキドキしました。

きららは、どれだけこわかっただろうと思いましたが。

この本を読んで、わたしが一番心にのこったところは、母ちゃんがいのち、楽しいこと、うれしいこと、大切なものにねだんなんてつけられない

と言ったところです。この本の題名の「ねだんのつかない子犬」のねだんのつかないという意味は、すて犬だからねだんのつ

かない子犬ではなくて、いのちや楽しいこと、うれしいことに、ねだんはつけられないから、

ねだんのつかない子犬なんだなと思いました。

この本を読んで私は、犬をかうならペットショップやブリーダーから高いお金を出して買うのではなく、きららいがいにもすて犬がたすかるように、どうぶつあいごセンターから犬をひきとりたいたと思いました。そして、人間はこわくないと教えてあげたいです。

【銀賞】

かあちゃん取扱説明書

吾田東小学校 後藤 大智

初めて、この本の題名を見たとき「取扱説明書」の意味がわからなくて、じ書で調べました。

そうすると、きかいなどについている

「トリセツ」だということがわかりました。

「お母さんのトリセツって何だろう。」ときょう味を持ったので、この本を読んでみることにしました。

この本の主人公のつやは、ガミガミうるさくておこってばかりのお母さんをうまくあつかうために、お母さんの取扱説明書を作ろうとします。

ぼくは「いいな。ぼくもほしいな」と思いました。ぼくはてつやの気持ちがわかります。なぜなら、てつやのお母さんはぼくのお母さんにているからです。いつも「早くしなさい。」と言われるし、ゲームがいいところでも「三十分たったよ。」と言われます。お母さんが後ろを向いていても注意をされるので、ぼくのお母さんは後ろに目がある

んじゃないかとも思っています。

てつやは本物の取扱説明書をさん考にして、お母さんのトリセツをどどん作っていきます。きほんきのうが「ごはん作りやせんたく」お手入れの方ほうが「手入れふよう」べんりきのうが「宿題手伝い」というところがぼくのお母さんとそっくりです。てつやもさい初はトリセツを

使ってうまくいったと楽しそうでした。でも、友達のカズとのお母さんの話を聞いて、自分のことばかりでお母さんの気持ちを考えていなかったんじゃないかと思いはじめます。てつやがお母さんの気持ち

を考えて行動するようになると、お母さんはいつもえ顔でごきげんになりました。

一年くらい前、ぼくのお母さんが体調をくずしてねこんでしまったことがあります。お父さんもお母さんもその時はとても大変そうだったので、ぼくも出来る事はいろいろお手伝いをするようにがんばりました。そうするといつもおこってばかりのお母さんが「ありがとう、たすかるわ」と言ってくれた時、ぼくはとてもうれしくなりました。もう今はお母さんは元気になったので、その

時のことは

少しわすれていました。

てつやのお父さんは

「トリセツなんていうと、きかいてきに聞こえる
かもしれないけどさ、人って多かれ少なかれ、気
づかないうちにそうやって相手のことをみて、考
えて、つきあっていくんじゃないか。」

と、言っています。ぼくもそうだなと思います。

ぼくがもし「トリセツ」を作るなら「相手を自分
の思い通りにさせるもの」ではなく「相手の気持
ちを考えて、相手によるこんでもらうもの」の方
がいいなと思いました。相手によるこんでもらっ
て「ありがとう」と言われる方が、ぼくはずっと
うれしいからです。

「ありがとう」がおたがいにたくさん言えるよ

うに、相手の気持ちを考えて行動するようにした
いと思います。

【銅賞】

お昼の放送の時間です

吾田東小学校 荒武 凜

わたしは、「お昼の放送の時間です」というお話
をえらびました。その理由は、図書館でこの本を
見つけた時に、おもしろそう、放送のお仕事をわ
たしもやってみたいと思ったからです。

このお話は、かえでという女の子とこうへい
という男の子の四年生二人が放送委員のお仕事をし

ながら、はじめはケンカばかりしていたけど、ど
んどんなかよしになって、さい後は感動するお話
です。

わたしが一番心にのこった場面は、こうへいが
駅で泣いている時に、かえでが声をかけてあげた
所です。

いつもは、あばれたり、人にいじわるをしたり
するこうへいの事があまり好きではなかったの
に、駅で泣いているこうへいに声をかけてあげた
かえでは、やさしいなと思いました。

こうへいの弟は、ぜんそくというびょう気で、
お母さんと二人で遠くに住んでいます。

こうへいは、お父さんと二人で住んでいて、

こうへいの家は、下にスーパがあるので、

すぐにお買い物に行けます。お母さんがいないの
で、料理やせんたく、そうじ、お買い物は全部、
お父さんとこうへいが二人でがんばっています。

わたしも、同じような経験があります。それ
は、一番下の弟が生まれた時の事です。

お母さんが入いん中の時に、お父さんと妹とわ
たしで、おうちの事をがんばりました。

わたしは、妹とせんたくほしをがんばってしま
した。妹が一枚ずつ、しわがないようにわたして
くれて、それをわたしがハンガーにかけてほしま
した。いつもは、ケンカをしている二人だけど、
この時は、協力し合って家の事をがんばりまし
た。

こうへいもお父さんと二人だけで、がんばって
いるのでえらいなと思いました。

こうへいのお母さんは、毎週水曜日にこうへいのいる小学校で調理員の仕事をしています。なので、こうへいは水曜日が来るのをいつも楽しみにしていました。

金曜日の事です。放送委員の仕事があった日に、かえでに言いました。

「水曜日にお母さんが調理員の仕事で、学校に来るんだ」

と、うれしそうに言いました。

かえでに話している時のようすから、一週間ぶりにお母さんに会える事をすごく楽しみにしているんだなと思いました。

そして、水曜日お母さんがきてないと、こうへいは知ってその時からかなしくなっていきました。

いつもは、声が大きくて赤いランプだけど、つぎの放送は、いつもよりか声が小さくて、緑のランプでした。そんなこうへいを見て、かえでは、心の中で心ばいしていました。

学校が終わって、お母さんに会いたくなっただこうへいは、一人駅で泣いていた。そこに、かえでが声をかけてあげると、かえではいっしょにお母さんの住んでいる所まで行ってあげました。お母さんに会えたこうへいは、来れなかった理由を聞いて、うなづくど、ホッとしたように見えました。

帰りに遊園地で、こうへい、弟、お母さん、かえでとみんな楽しく遊んだから元気を取りもどしました。

つぎの金曜日放送は、ちょうどいい声で、

えがおで放送をする事ができました。

この本を読んで、これからもかえでみたいにと
んな友だちでも、なかよく元気にやさしくして行
きたいと思いました。

『小学校四年生の部』

【金賞】

ホームランを打ったことのない君に

油津小学校 肥田 康佑

《講評》

学年にふさわしく、自己の課題や疑問を解決するための選書がされていました。

自分のことばで、率直に考えを述べてある一方で、読書とおして今後の自己変更について詳しく書かれると、読みごたえが出てくると思います。

みなさんは、「ホームランを打つなんて、かんたんだろう。」と思ったことはありませんか。実さいに打つのは、とてもむずかしいのです。野球の練習をするときに、ホームランを打ちたくて、思いつきふるけど、いつも打てません。そんな、がっかりしているときに

に、この本が目にとびこんできました。

この本の内ようは、主人公のるい君と友だちの仙ちゃん達が、ホームランを打ちたくて、練習していく話です。

一番心に残った言葉は、『始める前からあきらめるのかい。ゆめみるだけにしとくのかい。やってみないとわからんだろう。オレだってまだあきらめてないぞ。』です。この言葉は、るい君が、ホームランを打てないとあきらめたときに、仙ちゃんが言った言葉です。

ぼくもすぐあきらめてしまうところがあります。例えば、ぼくは、持久走大会で、スタートと同時に友達にぬかされました。後半、ぼくと一位の友達との差は、五十メートルぐらいでした。最初から、ぼくは、本気を出す前にあきらめてしまいました。その場面を主人公とくらべてみると、大ちがいでした。るい君は、仙ちゃんの言葉で目をさましたけど、ぼくは、最後まで、あきらめっぱなしだったからです。持久走の結果は、

二位でした。くやしかったです。本気をいつも出さないと心もタイムも成長しないままになってしまいます。だから、ぼくも今度からは、あきらめないで、仙ちゃんの言った言葉を思いだしていきたいです。

もう一つ感動した言葉があります。それは、『ぼく、いつかホームランを打つよ。でも、その前にヒットだね。』です。これは、大きなかべをのりこえるのはむずかしいけど、小さな一歩は、のりこえやすいという意味だと思います。ぼくは、えい会話を習っています。最初は、アルファベットも書けなかったし、先生のえい語を聞いても、全くわかりませんでした。でも、今は、アルファベットは、全部書けるようになったし、先生の言ってる事も、大分わか

るようになりました。このように、小さな一歩を積み重ねていって、いろんな国の人と会話をしてみたいです。

いきなりホームランはむ理だから、まず、ずぶりやランニングなどで体をきたえていこうと思います。き本の練習から本気を出して、あきらめないで、いつかホームランを打てるようになりたいです。

【銀賞】

チャーリー・ブラウンなぜなんだい？

大窪小学校 杉田 竜馬

この本との出会いは、学校の図書室です。

表紙の女の子が病院の中にいる様子が前から気になっていたので、読んでみようと思いました。

この本の、「チャーリー・ブラウンなぜなんだい？」の中にとうじょうするジャニスは白血病の女の子です。白血病というのは血えきのがんです。こんな重い病気になると、その子どもはもちろん、家族や友だち、まわりの人はとても大変です。

ぼくがこの本を読んで心に残ったことが二つあ

ります。

まず一つ目に、がんがこわいびょう気だということ。チャーリー・ブラウンが、友だちのジャンスに、

「死なないよな。」

と心配して聞いた場面で、おねがしめつけられるようなせつない気持ちになりました。

チャーリーが、いつものように学校へ行くと、

ジャンスが調子をわるくして保健室へ行きまし

た。先生が熱をはかったら、40度をこえてい

て、すぐに母親におかえに来てもらい家に帰りま

した。ジャンスは、次の日から季節が変わるまで

何日も休みました。そこではじめて、チャーリー

は、ジャンスが入院していることを知りました。

チャーリーがおみまいに行くと、ジャンスが、

「がんだったの。」

と教えてくれるのです。

ぼくは、この「がん」という言葉をとても

こわく感じました。ぼくも同じ場所にいたら、心配でチャーリーと同じことを聞いてしまうかもしれませぬ。ぼくは、はげましたい気持ちになりました。

二つ目は、友だちの大切さです。

ジャンスが入院して季節が変わりました。

朝、学校に行くと、ジャンスが来ていました。

学校につくとすぐ、いじめっこがきて、ジャンス

がかぶっているピンクのぼうしをからかっはず

しました。ジャンスの頭にかみの毛のないのを見

たのです。それを見て、いじめっ子は大声を出し

て、ばかにしました。ジャンスの目にはなみだが

いっぱいになりました。それを見たライナスが、
すごいいきおいでいじめっこにつめよりました。
ライナスはいじめっこのおなぐらをつかんで、ら
んぼうにゆさぶりました。そして、ジャニスが白
血病で長いこと入院していたこと、病気をなおす
ためにちりょうしてかみの毛がぬけたことを聞か
せました。すると、いじめっこは「ごめんね」と
言ったのでした。

ライナスのようにゆうきを出してはつきり言え
たらかっこいいなあと思いました。ジャニスは、
いたい思いをしてやっこのことで学校に来たのに
からかわれて、いやな思いをしています。でもこ
んな友だちが周りにいてよかったなあと思いまし
た。

この本を読んで、ぼくは、人の気持ち分かる

人になりたいなあと思いました。そして、友だち
に何かあったとき、ちゃんと助けてあげられる人
になりたいです。

【銅賞】

クジラのおなかからプラスチック

大堂津小学校 森 柚奈

タイの海岸に打ち上げられたクジラの胃からハ
十まいをこえるプラスチックのふくろがでてきた
というニュースが二千十八年六月に流れたそう
です。五月に打ち上げられたこのオスのクジラは残
念ながら死んでしまいました。おなかを切り開い

て調べてみたところ重さにして八キログラムのふくろがみつかったそうです。スーパーやコンビニで買い物をするのと入れてくれる白いレジぶくろが代表的なプラスチックです。クジラはこのふくろをエサとまちがえて飲みこんだ可能性がありません。

ふくろをたくさん飲みこんでしまったために本当に必要な栄養ようをエサからとることができなくなつて死んだそうです。クジラだけではなく、ウミガメもまちがえて食べてしまうことが昔から問題になっていきます。

私は、この本を読んでプラスチックとは、どんな物があるか考えてみました。プラスチックと聞くとシャンプーやジュースが入っている容器のよくなかたい物と思っていたけど、レジぶくろやペ

ットボトルのラベル、ストローなどもプラスチックでした。私の知らない物がたくさんありました。でも、どうしても海にプラスチックのふくろがあるのでしょうか。プラスチックのふくろは海で作られたものではありません。私たちが作り、そして使った物です。それが海に出ていってしまったのです。海水浴に行った時、ごみをちゃんと持って帰っているか。ゴミ箱じゃない所に置いてきてないか。川の水は流れて海に出ていくので川のまわりに捨ててないか。私たちが便利な生活をするために使っている物が海の生き物たちを苦しめているそうです。この問題は世界中で起きています。海に流れてしまったゴミは私たちには関係がないと思っていたけど魚の体にもふくまれていて私たちが食べてしまっている事があるそうです。

私は毎年、海岸のそうじに行きます。毎回たくさん
さんのプラスチックゴミが砂浜に流れてきていま
す。特におかしのふくろやペットボトルがたくさ
んあります。これも私たち人間が捨てた物だと考
えるとすごくいやな気持ち

になります。海や砂浜もよごれて悲しいです。

プラスチックは、生活していく中で便利で必要な
物でもあるのですぐに使うのをやめるわけにはで
きないけど、プラスチックゴミをへらすために私
たちに何ができるのかみんなにも考えてほしいと
思います。おだなレジぶくろはもらわない。一人
一人ができる事は、たくさんあると思います。

今、自分にできる事は何なのか早速、今からみん
なにも始めてほしいと思います。

『小学校五年生の部』

【金賞】

もうひとつの屋久島から

飢肥小学校 瀬戸山 璃音

《講評》

読書を通して気付いたり、興味関心を高めたりしたことをしっかり述べていました。そして、読書から学んだことをこれからの生活に生かしているという成長した姿が見られました。すばらしい感想文ばかりで感心しました。

わたしは、「もうひとつの屋久島から」を読みました。本の表紙に「世界い産の森が伝えたこと」と書かれていたので、何を伝えたいのだろうときょう味をもったからです。

読み終えたとき、とてもいい話だなと思いました。この本は、わたしたちのような子どもたちに大切なことを伝えようとしていました。大切なこととは、自分の意見をしっかりとつとめることです。一人一人がよく考えずにみんな同じ意見だったとしたら、そこで話し合いが

終わってしまふし、もっといい考えがあつても気づかないままです。

この本を書いた武田さんは、新聞記者をやめて屋久島にい住しました。一つの場所にとどまって長年にわたりそこでくらすことでしかわからないことがあるのだそうです。仕事をやめて知らない場所に家ごとひっこして

武田さんは、何を知らなかったのでしょうか。

それは、屋久杉の話でした。島の人たちが切らずに大切にしていた杉は、江戸時代になったときしばっさいが本格的に始まることになりました。屋久島では米が取れなかったので、

屋久島の人たちは屋久杉を平木にして、さつまはんから、米だわら一つと平木二千三百枚を交換してもらっていました。さつまはんは、

米だわらの何倍も価値がある平木を高く売って大きな利益を得ていたそうです。戦争中は兵器になり、戦後も焼けた家を建てるために、

屋久杉は切られ続けました。人間の都合で何の抵抗も出来ず、命を取られていく屋久杉の話に、わたしは自然に対して申しわけない気持ちになりました。

「このままでは屋久島の自然はほろびてしまふ。」

と屋久杉を守る活動を始めた人たちが出てきました。屋久杉を切らなければ生活できないから、とても勇気のいることだったと思います。何回も何回も話し合いをして、やっと屋久島は「世界遺産」になりました。屋久杉の

命を守った人たちは、人と違う意見でも正しいと

思ったから、つらいことがあっても自分たちの考えを伝え続けていました。

わたしは、今まで人と違う意見をもっていてもほとんど言わないできました。友だち同士の関係をこわしたくなかったからです。気まづくなるのがこわかったです。今も、わたしは、このやり方は全く間ちがいとは思っていません。人の考えをそんな考え方があるんだと受け入れて自分が少しゆずれば、みんなでにこにこ過ごせるからです。でも、屋久島の杉のように意見をしっかりと一言い取り返しのつかないことになる場合は違います。いじめやけんか、大事なことを決めるとき、後で決して後かいしないように勇気を出して自分の意見を言うことを決めました。「世界い産の森」はわたしがこれから生きていくときにやらなければ

ばいけない大切なことを教えてくれました。これが、わたしの決意です。

【銀賞】

これ、ぼくの宝物です

吾田小学校 山村 美結

わたしが「これ、ぼくの宝物です」を選んだきっかけは、この宝物が何なのかを知りたかったからです。

この物語には、小学五年生のそーいち、中学二年生の姉のみかげ、弟のとよじが出てきます。そーいち一度美容室に行った時に、

男の美容師さんが格好よくて、自分も美容師になろうと決めていました。姉のみかげは、

そういちの九さいの誕生日にバリカンとはさみをプレゼントしてくれました。そのはさみとバリカンは、

「わたしのかみの毛切ってもいいよ」と言って、

ヘアカットの練習台になってくれていました。そんな姉のみかげはリンパ腫という大きな病気になり、その治療でかみの毛がなくなってしまいました。女の子でかみの毛がなくなるという事は、わたしにとってもショックでした。

学校の授業で宝物のバリカンとはさみをみんなに見せて、将来の夢についてそういちが発表した後、クラスメイトの冬子と誠が練習台になって自分のかみの毛を切らせてくれました。そ

のせいで先生や親を巻き込んだ事件になりました。二人はそういちの練習台になってくれたけど、わたしだったら友達が失敗したらいやだからかみを切ってもいいよとは

言えないと思います。そういちにはとても良い友達がいるにいてうらやましいなと思いました。

わたしがこの本を読んで一番印象に残ったのは、みかげの病気の治療が終わりたいいんして家に帰って来て、かみの毛が少しずつ生えてきた時、そういちに「わたしのかみの毛切ってもいいよ」と言った最後の場面です。

「いいことなんかなにもない」と落ち込んでいたみかげが、ここまで回復したすがたを見て、そういちや家族みんながすぐうれしかっただろうなとわたしは思いました。そして

病気でとても辛かったのに、そういちの事を思っ
てそう言えるみかげもすごいなあと思いました。
兄弟姉妹がわたしにはないので、気持ちがあわ
らない事もあるけれど、そういちの家族のよう
におたがいを思いやって大切にできるような家族
になりたいなと思いました。

この本は自分の夢や目標を持って努力すること
と、家族や友達を大切にすることが大事だ
と言いたかったのではないかと思います。そうい
ちは美容師になろうと決めてから、みかげの部屋
にある雑誌などを見て勉強し、努力していまし
た。わたしも大人になったら、なりたい仕事を決
めて、そのために一生懸命努力して実現したいと
思いました。そして、そういちのようにこれから
生きていく中で家族や友達の助けが必要な時がた

くさんあると思います。人のやさしさや、人を思
いやる気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思
いました。

【銅賞】

転んでも、大丈夫

吾田東小学校 黒木 蘭夏

わたしは、白井二美男さんの「転んでも大丈
夫」という本を選びました。なぜこの本を選んだ
のかというと、道徳の授業で、「転んでも大丈夫」
の一部を学習して、この本についてもっと知りた
くなったからです。

筆者でもある臼井さんは、義肢装具で、生まれつき手足のない人や、病気や事故で手足をなくした人に、その代わりになる義手や義足を作る仕事をしています。手足がなくても、生き生きと自分らしく暮らすことができるよう、義手、義足が必要な人の人生と向き合い、努力を続けています。義肢装具の仕事や、臼井さんの半生、パラリンピックで活躍する選手との深い関わりについて、紹介されています。

わたしは、臼井さんのどんなにおずかしい仕事でも、無理と言わず、たちむかい続けているところ、無理と言わず、たちむかい続けているところが心に残りました。ねる時間をけずって作り続けている義足には、あつい思いがこめられていると書かれていたのが心にひびきました。わたしは、習い事のバレエで、できなかった技

を、無理とあきらめずに練習を重ねています。最初は、体がすぐかたくてバレエなんかできそうにもありませんでした。わたしが、バレエを習いたいと言った三才の時、お母さんが先生に、「こんなに体がかたくて大丈夫ですか？」と聞いたところ、先生は「大丈夫です。出来るようになります。」ときっぱり言われたと聞きました。わたしは、その言葉を信じて練習を続けています。始めて四年くらいたつとかたかった体も少しずつ使えるようになってきました。六年たったころトゥシューズの許可が出ました。そして八年たった今、トゥシューズの練習は足先がとても痛くて辛いです。すがきれいに立っておどれるように投げ出さず練習を続けています。無理と思ってしまうと、やる気も集中力もなくなってしまうます。だから、無

理と言わず、思わずやってみるといことが大切だと思っています。

筆者の白井さんは、患者さんの人生と向き合い続けていました。この本を読んでわたしは、白井さんのように無理と言わず、まずは行動してみること忘れずに、何事にも挑戦しようと思いました。これから先の人生、苦しいこと、つらいこと、自分では乗り切れそうではないことがたくさん出てくると思います。そんなときは、白井さんが書いていたことを思い出して、乗り越えていきたいです。

『小学校六年生の部』

【金賞】

「ありがとう、フォルカーせんせい

吾田東小学校 榎木 彩晴

《講評》

本の内容や印象に残った場面・言葉から自己を見つめ直し、これからの自分の生き方に反映させていこうとする姿勢が多く表現されていました。これからも読書を通して様々な生き方や考え方に触れながら視野を広げていってほしいと思います。

ぼくは、「ありがとうフォルカー先生」という本を選びました。なぜなら、4年生のときに読んで感動してそれから何度も読んでいるからです。

LDという障がいを持つトリシャは、字も数字もくねくねした形にしか見えません。そのことで、クラスメイトからいじめられていたトリシャでしたが、5年生の時に新任のフォルカー先生と出会います。フォルカー先生はトリシャのひみつに気づき、特別な練習をはじめて字が

読めるようにしてくれたのです。

実は、このお話は、作者のパトリシア・ポラッコが子供のころ実際に経験したお話だそうです。

ぼくは、この本の中で心に残った場面が2つあります。一つ目は、勉強ができていじめられていたトリシャにフォルカー先生が、

「きみはかしこくて、それにとってもゆうかんだってことじゃないか。」

と言ったところでした。その場面は、はじめて

トリシャが大人の人にみとめられほめられたところだから自分もうれしくなりました。

二つ目は、特別な練習をはじめてから、数ヶ月後、トリシャが初めて本が読めた場面です。トリシャは、小さなころから本が読める

ようになることを楽しみにしていました。けれ

ど、LDという障がいのおかげで字が読めませんでした。ぼくは、LDという障がいのことをこの本を読むまで知りませんでした。もし、ぼくの周りにLDをもっている人がいたらふつ々の教え方だとLDをもっている人は

分からないので、ていねいにちがう方法で教えてあげたり、できないことをからかわないようにしたいです。

ぼくは、いじめられているのに、がんばって学校に行っていたトリシャは、すごいと思いました。なぜなら、ぼくは学校でいやなことがあったらすぐに、学校に行きたくない気持ちでいっぱいになります。ぼくだったら、学校を休んでしまうと思うからです。

ぼくは、このお話を読んで、遠足や交流会など

で一人ぼっちをつくらせないようにしたいと思いました。その理由は、もうトリシャのように悲しむ人が出てはいけないと思ったからです。

また、身近にある点字ブロックや、手話なども興味を持ってました。もっと勉強をして

だれとでもコミュニケーションをとれるようになりたいです。そのためには、いろいろな人に自分から話しかけたいです。

【銀賞】

二日月

鶺鴒小学校 大迫 美友

(どうして、三日月じゃなくて、二日月なんだろう。)

そう思いながら、私は本を手に取りました。

ページを開くと、お腹に赤ちゃんがいるお母さんと、うれしそうに話をするお父さんと女の子の絵がありました。私は、幸せな普通の家族の物語なのかなと思って読み始めました。

お母さんのお腹にいた赤ちゃんは女の子で、芽生と名付けられ、みんなで誕生を喜びました。お姉ちゃんとなった杏は、妹がほしかったので、と

でもうれしかったと思います。でも、喜びもつかの間、ミルクをあげてもすぐに吐いてしまい、生まれた時よりも小さくなったような感じさえする芽生の様子に、お父さんお母さんは不安をつのらせます。そんな中、芽生に障がいがあることが分かりました。

お腹の中にいる時に逆子だったため、脳に酸素が行きわたらなくなり、障がいをもって生まれてきてしまったのです。私は、杏の気持ちを自分のことのように感じながら読み進めました。

私は、杏が、

「芽生なんて生まれてこなければよかった。」

と言った場面を読んだ時、胸がしめつけられるような気持ちになりました。芽生が生まれてきたことで、生活はがらりと変わって、杏はさびしい気

持ちでいっぱいでした。自分だったらそんなひどいこと言うだろうか、でもやっぱり杏みたいに苦しいはず、そう思いながら読みました。杏の心の中は、次第にもっとぐちゃぐちゃになっていきます。杏は、妹に障がいがあることを友達に知られたくないと思い、そんな自分を「最低だ。」と言って友達に気持ちを打ち明けますが、私は一番その場面が心に残りました。

（私が杏だったらやっぱりそんな風に思うかな。

思ったらいけないと思いがら。）

と、私も悩みながら読みました。また、杏の

気持ちを受け止め励ました、親友の真由の優しさや、二人の心が通じ合っている様子に、

心が温まっていく感じがしました。

私は今回「二日月」を読んで、様々なことを考

えました。私には、障がいのある家族はいませ

ん。だから、杏の気持ちは正直言ってよく分からない部分があります。だけど、これから先、悩んだり苦しんだりすることがあっても、必ず明るい明日が来ると信じて生きていきたいと強く思いました。まっくらで、

何も見えなくなるときがあっても、かならずまた満ちていく。明るい明日がきつとやってくる。まるで二日月のように。

【銅賞】

街のいのち

大堂津小学校 多田 美有

「お母さん、ありがとう」

この言葉は、「街のいのち」の主人公瞳がお母さんに言った言葉だ。瞳のお母さんは重い病気で亡くなってしまいが、その亡くなった母に言った言葉である。瞳の母は亡くなってからも「元気を出さない」とはげましている。それを瞳は街の緑の命の気配から感じた。私は、瞳の母への思いがすごいと感じた。

私の母は元気にマンゴー農家に勤めている。朝早くから出勤し、夕方五時ぐらいに帰ってく

る。帰ってくるすぐ、夕食の準備に取りかかる。みんなが夕食を食べ終わると、食器

洗いなどの片づけをする。一息ついた後、私と母は、その日のことを話す。特に友達のことを話すと、母は相づちをうちながら聞いてくれる。私になやんでると、アドバイスをくれる。そんな母に「ありがとう」と心の中で思っている。

五年生の時に、宿泊学習に行った。家族のいない夜を過ごすのは、初めての経験だった。夜ベットの中で一人でねていると、急に家族のことを思い出した。

「今ごろは、いつも、お母さんと話している時間だな。」

「お母さん、もうねているかな。」
など、色々なことを考え、さみしくなってきた。

毎日の出来事が、当たり前前になっていたが、一人になると母のありがたさを感じる事ができた。

「街のいのち」の主人公瞳は、母が亡くなって瞳はからの中に閉じこもってしまった。だれが来てもぜったいにドアを開けなかったり、電話がなるのも恐ろしく感じたりした。

瞳にとって母の存在は、とても大きかったのだ。

私にとって、母の存在はそこまで大きいと感じたことはない。しかし、ご飯を作ってくれたり、友達の話聞いてくれたりする母の存在は、大切なものだということはある。

宿泊学習の夜に感じたさみしさが何よりのしょうこだ。家にいると、ついあまえて、母に

何でも頼ってしまう。母に感謝の気持ちを伝えることもない。

私は「街のいのち」を読んで、街の緑に命の気配を感じ、その命の気配が、生きるよう

にと瞳を上げます母の声だと受け止めた瞳に

感動した。瞳が少しずつ大人に近づいていったように、私も少しずつ大人に近づいていけたらいいと思う。

そして、いつの日か母に感謝の気持ち伝えた
い。

「お母さん、ありがとう。」

『中学校の部』

【金賞】

スギ林はじゃまものか

飢肥中学校 一年生 森 亜美佳

《講評》

入賞した作品はすべて、単に本のあらすじやその感想を述べるのではなく、自分の生活と本の内容をクロス(重ねて)させて書かれていました。そのことで私たち読み手に、強い印象を与えることができたと思います。

また、本を読む前に自分が思っていたことや考えていたことと、本を読んだ後の気持ちを比べて書いていたところもよかったと思います。

「スギ林はじゃまものか」という題名を図書館で見た時、私は絶対にじゃまではないと強く思いました。筆者は、どのようなことを考えているのかとても気になり、この本を読んでみようと思いました。

私は、林業のさかんな諸塚村に三年間住んでいました。諸塚村は、面積の九十五パーセントが森林で、村の多くの人々が林業に携わっていました。そしてみなで森を守っていると感じました。

小学生の頃は、木や森林のことをたくさん勉強しました。五年生の総合的な学習の時間で森林について学ぶために下草刈り体験を行いました。その時は、森林の勉強なのになぜ草を刈ることが必要なのだろうかと思っていました。この本では、①地ごしらえ②植え付け③下草刈り④補植⑤つる切り⑥除伐⑦枝打ち⑧間伐の八つの作業が紹介されていました。本を読んでいると、下草刈り体験をしたときのことを思い出しました。斜面で足場が悪く、自分の身長より低い草を腰を低くしてカマで切る作業がとても大変だったことを思い出しました。下草刈りをする理由は、草でスギの苗が覆われてしまい、光合成ができなくなり枯れてしまうから行われていることが分かりました。スギを育てるための工程がある程度知

っていたつもりでしたが、この本を読んで、その一つ一つの工程をする理由が分かりました。どの工程もスギ林業にとっては、やり損なうとよいスギはできないと思いました。スギ林業は植え終えてから伐採するまでに最低でも三十年はかかるそうです。

また本の中にもスギ林業が重労働で人手をたくさん必要とすることが書かれていました。私の友達のお父さんも山師の仕事をしていました。人の体の何倍もの大きさのある木を技術と経験で、安全に切り倒していく話を聞き、感動したことを思い出しました。

スギは、木目が美しく大きな柱が取れる事も書かれています。だから、諸塚や日南のスギが東京オリンピック関係施設の木材に選ばれたと思

ます。宮崎のスギが世界の人たちに見てもらえたり、良さを感じてもらえたりすることをほこりに思いました。

本を読み進めていくと筆者から「日本の森林は国土の何パーセントくらいあるのか」というクイズが出されました。私は、約七十パーセントと予想しました。すると、日本の森林面積は二千五百万ヘクタールで、国土の面積の六十七パーセントを占めていました。一番驚いたことは、日本の森林率は先進国の中で第一位ということでした。私は、針葉樹の多いカナダが第一位というイメージがありました。筆者は日本の森林をどうやって守っていかかこれからの私たちの世代にかかっていると訴えていました。

私は、諸塚村に住んで木や森の魅力を学習した

から木が大好きになりました。しかし、

平野や都会に住んでいる人はどうなのかと思いましたが。スギというと、スギ花粉でたくさんの方が悩まされています。私も母も花粉症で毎年苦しんでいます。私は花粉症の人はスギが好きではないのかもしれないと思いました。また、じゃまで無くなればいいのと思っている人も多いのではと思います。しかし、スギがなければ温かみのある木独特の家が作れなかったり、木のおいで癒されることもできなかつたりすると思います。

私がこの本で一番心に響いた言葉は「きっかけさえあれば、若い人たちが林業に関心を示し、深く理解することができるといことが分かってきました。」という文章でした。私は、親の転勤で諸塚村という林業のさかんな地域に住むというきつ

かけがありました。そこで、林業のすばらしさ、大切さを感じる体験ができました。

最後に、私は、森林は過去からの贈り物だ

とこの本を読んで思いました。理由は前の世代の人たちが一生けん命育ててきた立派な木だからです。私たちも、次の世代に立派な木

を贈ることができるようにしていかないといけないと思います。理由は、今私を感じているような木のぬくもりや温かさを次の世代では感じる事ができなくなると思ったからです。この本を読むでから私は、木で作られている物を大事に扱いたいと思うようになりました。例えば、紙やノートをむだに使ったり、

机などの家具の使い方に注意したいと思います。このような小さなことでも未来のために取り組み

たいです。そしてスギ林をしっかりと守り後世に受け継いでいきたいです。

【銀賞】

獣の奏者

東郷中学校 一年 小林 暖佳

読みながら強く疑問に思ったこと、それは、「すべての生き物が共通して持っている感情は〈愛情〉ではない・〈恐怖〉よ。」

これは、エリンが王獣にかまれてけがをしたとき、エサル師が言った言葉です。私はその意味を理解できませんでした。なぜなら、私がか家で飼っ

ている猫は、自分からすり寄ってきてくれたり、なでるとうれしそうにのどを鳴らしてくれるので、愛情がないようには思えないからです。でも、エリンの命の恩人、ジョウンの言った、「人であれば、スズメ蜂に刺されて動転したって、仲の良い子供を蹴り殺したりしないが、馬には、そういう配慮はないんだぞ。」という言葉には、共感できるところがありました。一年前、飼っている猫に、とつぜん引っかかれたことがあります。深い傷にはならなかったけれど、六年間一緒に暮らしてきて、引っかかれたことは一度もなかったもので、とても驚きました。そして「怖い」と思いました。その日から、私はしばらく飼っている猫をなでることができなくなりました。でもエリンは、大きな傷だったに

も関わらず、けがが治ってすぐ、エリンを傷つけた王獣のもとへ通い続けていました。私だったら、王獣からにげてしまっていたと思います。動物に対する愛情が、その行動から表れていて、すごいなと思いました。

もう一つ、心に残ったことがありました。それは、重い責任を背負いながらも、あきらめずに何度も立ちむかっていたことです。エリンの、このあきらめない気持ちは、私が六年生のときの経験を思い出させてくれました。私は、六年生のとき、運動会の副団長になりました。私はリーダーに立候補していましたが、副団長をやってみないかと言われ、副団長に選出されました。これまでも、このような大きな役を担うことがなかったので、うまくまとめられなかったり、声が小さかっ

たりで、失敗の連続でした。突然、先生方から厳しい注意もよくありました。何度も「副団長は向いていないのではないか」と悩み、後悔しました。でも、任された仕事はやるしかないと思い、運動会まであきらめずにがんばりました。運動会でも、自分のできる精いっぱい努力をしました。すると、運動会が終わった後、多くの先生方からお褒めの言葉を頂きました。当時は、何も成長できていないと思っていました。でも今、改めて振り返ってみると、大きな声が出せるようになったり、昔より積極的になったと思います。今では、あの経験があってよかったと思っています。この本で読んだエリンの行動力から、「あきらめない心」を学びました。

今、振り返ってみて、小学生のときは、自分を

変えたくて挑戦していましたが、中学生になって、挑戦することが減ったと思います。まずは、意見を発表するとき、一番に手を挙げられるようにしたいです。今までずっと、意見があっても手を挙げないことがあったので、二学期からがんばりたいです。さらに、生徒会や学級委員長などの仕事にも挑戦し、あきらめずに、最後までやりとげられる心の強さを身につけたいです。そして、自分をさらに高めたり、成長したりできるようになりたいです。

現代は物があふれすぎているからか、動物を物のように扱う人や、動物を捨てる愛のない人が、日本にもたくさんいます。でも、私はそのような人にはなりたくありません。私はエリンのように、動物に愛情を持って接する人になりたいと、

強く思いました。犬や猫などの動物は、毎年何万匹も殺処分されています。ストレスをぶつける飼い主や、えさもあげずに放っておく飼い主がいます。また、密輸で動物たちを苦しめる人たちもいます。私は、そのような不幸な動物を減らしたいです。まず、自分のできることで、今飼っている動物を大切に、最後まで寄りそってあげたいと改めて思いました。また、殺処分をのがれた動物たちの生活環境を良くするための募金にも参加したいです。

この本には、五年生のときに出会いました。そして今、もう一度読み返してみると、五年生のときより深く読みとれるようになっていました。大人になっても読み返してみたいと思える本でした。これからも、「動物への愛情」と「あきらめな

い心」を大切に、生活していきたいです。

【銅賞】

君の臍臓をたべたい

日南学園中学校 一年 渡辺 美羽

「君の臍臓をたべたい」という本に出会ってからの私は、生きることへの考え方が変わりました。私がこの本を選んだ理由は、魅力的な鮮やかな表紙に不思議な題名です。私はこの題名を見た時、臍臓が何なのか分かりませんでした。そこが私の選んだ理由になったと思います。

今まで人と向き合ってこなかった主人公の志賀

春樹が、病院へ行ったことをきっかけに「共病文庫」という同じクラスである山内桜良の日記を見つければ、桜良が臍臓の病気を抱えていて、あと一年も生きられないことを知ることになります。クラスの人気者である桜良と春樹の性格は真逆であるはずなのに、桜良の残りの人生を二人で過ごしていくことになってしまう物語です。

私はこの本を読んで、もし桜良と同じ病気である立場だったとしたら、自分はどうするんだろうと考えました。私は死んでしまうことが怖くて、毎日笑っていられなくなると思います。きっと私は、
「なんで私が死なないといけないの？」と神様を恨んだと思います。でも桜良は違いました。今日という日を後悔しないように生きて、笑顔でいた

んです。死と隣合わせで生きているはずなのに、前を向き続ける桜良の姿に感動しました。すごく強い人だと思いました。今こうして生きてられることは奇跡であり、幸せなことだと気付かされました。五体満足である私にできることは何か、これからの人生をどう生かしていけばいいかということに改めてしっかり考えようと思います。

次は、春樹について話したいと思います。人と向き合ってこなかった、良い意味で言えば自分を持っていない春樹を私は尊敬します。人は誰かと一緒にいないと孤独で自分が保てなくなると思いますが、でも春樹は、人に流されず、自分自身と向き合い、自分をつくりあげていったんです。私は、友達がなくなるのが怖くて、いつも周りに流されているので思っていることをはっきり言えてな

だと思います。でも春樹を見てみると、今の友達

にこだわる必要はないと思えました。これから

先、大人になるにつれて、たくさんの出会いがあり、たくさんの友達ができてくると思うけど、みんなにみんな良い顔をする必要はない、本当に大事だと思った人と一緒にいようという楓に考えることにしました。私はこれから先、春樹みたいに人に流されずに生きていこうと思います。自分を持っている人間になりたいです。

桜良と春樹の性格は真逆であるけれど、互いが、自分にはない相手の長所に気づいていたからこそ、一緒にいたいと思えたんでしょう。私も二人のように、前向きに、自分らしく生きれたらと心から思います。

では次に、私の印象に残った二つの場面を紹介

したいと思います。

一つ目は、ホテルでの「真実か挑戦か」というゲームのラストで、桜良が勝ち、春樹が真実を選んだ時の桜良の言葉で、

「私が…本当は死ぬのがめっちゃ怖いっていったらどうする？」

と言いました。桜良はいつも笑ってて病気のことなんか気にしてないように見えたけど、本当は、すごく強がって、怖い気持ちを忘れようとしてたんだなと思いました。いつも強がっていた桜良が唯一言葉に出した弱音は、どこか悲しくて、受けとめたくない言葉でした。「死ぬ」という言葉が身近にあるようで本当は遠いような寂しい言葉に感じました。

次に私の印象に残った二つ目の場面を紹介したい

と思います。それは、桜良が病院から退院し、待ち合わせをしている間、春樹が桜良に送ったメールです。

「君の臍臓をたべたい。」

この言葉の意味を最初は分からなかったけど、やっと分かった気がします。この言葉には意味が二つあると思います。一つは、昔の人はどこか悪い所があったら、動物のその部分を食べれば治ると信じられていたから、でもこの時、春樹が桜良に伝えたかった二つ目の意味は、

「僕は君になりたい。」

という意味ではないでしょうか。春樹は今まで人の存在を必要としていなかったけど、桜良と過ごすことで変わったんです。桜良が春樹を変えたんです。

「君の臍臓をたべたい」という本に出会ってからの私は、生きることへの考え方が変わりました。生きるとは生きられる時間だと思っていたけど、違いました。生きるとは、誰かと一緒にいる日常だと思います。私達健康な人間は日常があたり前になっているから今生きている大切さを忘れてしまうけど、命が限られてる人間にとっては大切な時間なんです。私達人間はこの日常の大切さを忘れず、前向きに、自分らしく生きていきましょう。

読書感想文入選作品名一覧

【小学校一年生】

たのしいばんのくに

外山 華妃 (鶉戸小学校)

うみのごちそうしろくま

甲田 迅 (北郷小学校)

【小学校二年生】

ぼくとかあさん

佐藤 陽菜子 (吾田小学校)

かがやけいのち！みらいちゃん

甲田 星南 (北郷小学校)

【小学校三年生】

ママのスマホになりたい

田中心 (大窪小学校)

まいごのねい

宮川 大海 (南郷小学校)

【小学校四年生】

はれときどきぶた

永田 愛奈 (吾田小学校)

まじよのナニーさん

加藤 了子 (東郷小学校)

【小学校五年生】

ぼくらの一歩

高橋 真麻 (南郷小学校)

パンプキン

河野 藍璃 (潟上小学校)

【小学校六年生】

いやし犬まるこ

高橋 優 (大窪小学校)

君たちはどう生きるか

岩崎 航太 (吾田小学校)

【中学校】

「のび太」という生き方

羽田野 祐世（東郷中学校 二年）

いつかすべてが君の力になる

橋口 怜奈（飢肥中学校 三年）

讀
書
感
想
画
入
賞
作
品

『小学校一年生の部』

金賞

そらの100かいだてのいえ

外山 華妃 (鶉戸小学校)



銀賞

シロクマのしゆくだい

日高 悠李 (大堂津小学校)



銅賞

オバケカレー

柴田 健登 (飢肥小学校)



『小学校二年生の部』

金賞

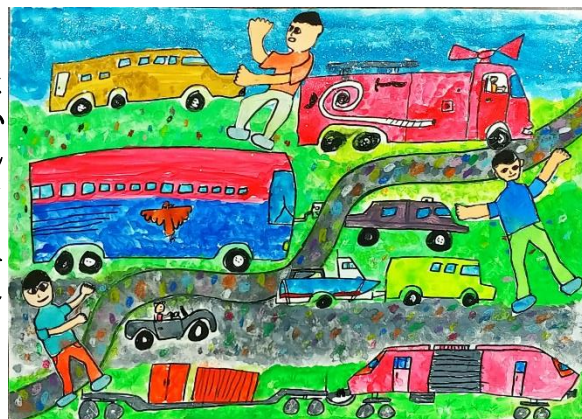
山田県立山田小学校山田山でサバイバル！？
小村 峻太郎（吾田小学校）



銀賞

はこぶ

長友 憲斗（鵜戸小学校）



銅賞

としよかんライオン

中津 凜星（北郷小学校）



『小学校三年生の部』

金賞

くものすおやぶんほとけのさばき

柴田 陽登 (鉄肥小学校)



銀賞

なににでもレナール!

池田 柚希 (東郷小学校)

銅賞

ねこまつりのしょうたいじょう

後藤 大智 (吾田東小学校)



『小学校四年生の部』

金賞

ウエン王子とトラ

中津 勇仁 (北郷小学校)



銀賞

メン！出会いの剣

吉永 彩乃 (吾田小学校)



銅賞

まほうの自由研究

上野 紗彩 (吾田小学校)



『小学校五年生の部』

金賞

オバケたんてい

穂森 泰斗 (鷺戸小学校)



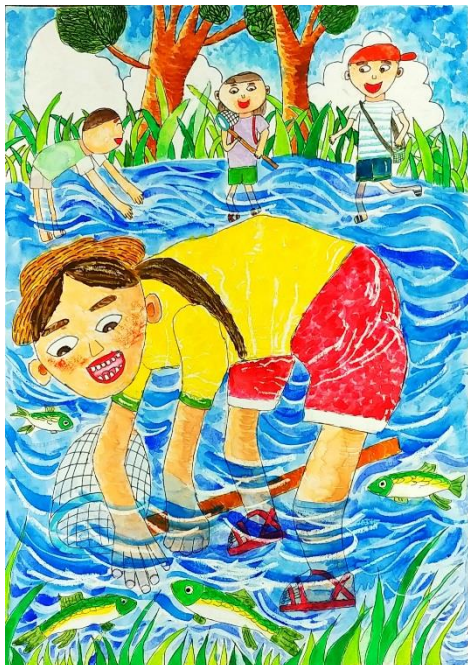
銀賞 100年たったら

新坂 妃莉 (鷺戸小学校)



銅賞 「水辺の楽枝」の所くん

川越 葵生 (飢肥小学校)



『小学校六年生の部』

金賞

ひだまり

松山 ひかる (飢肥小学校)



銀賞

いわたくんちのおばあちゃん

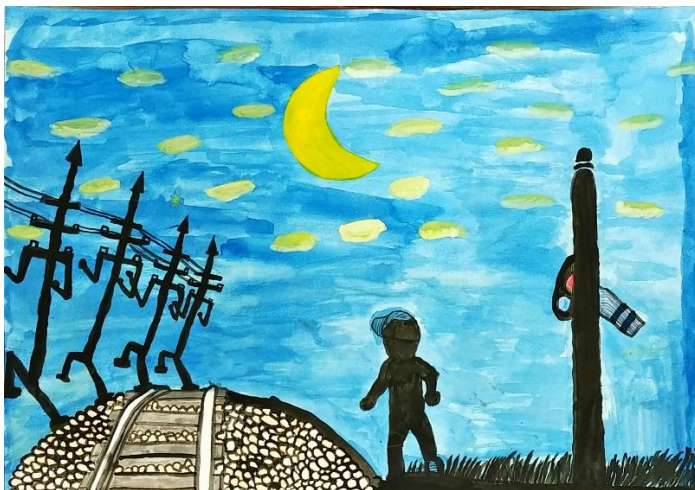
川口 晴瑠 (油津小学校)



銅賞

月夜のでんしんばしら

肥田 健吾 (油津小学校)



読書感想画入選作品名一覧

【小学校一年生】

れいぞうこのおくのおく

岩城 将虎 (大堂津小学校)

あめがふるふる

穂積 悠亜 (桜ヶ丘小学校)

【小学校二年生】

シロクマのしゅくだい

笠 美彩都 (桜ヶ丘小学校)

魔女のたまご

坂元 琉晟 (潟上小学校)

【小学校三年生】

ハートウッドホテル

池田 好花 (鶯戸小学校)

ヘンゼルとグレーテル

佐藤 奏多 (吾田東小学校)

【小学校四年生】

平家物語

浅尾 健心 (油津小学校)

キワさんのたまご

後藤 彩綾 (吾田小学校)

【小学校五年生】

ひだまり

池田 凌侑 (東郷小学校)

木のまつり

河野 巴南 (細田小学校)

【小学校六年生】

怪物はささやく

満嶋 由夏 (吾田小学校)

ひだまり

多田 美有 (大堂津小学校)

読書感想画の審査を終えて

今年も、色とりどりの素晴らしい作品がたくさん寄せられました。審査は一年生から学年をおって、入選と入賞作品を選びました。一年生の楽しくダイナミックな作品から、六年生の細部までしっかり描きこんだ作品まで、それぞれの学年らしさがよく出ている、変化のある作品をたくさん見ることができ、とても楽しく審査することができました。どの作品も丁寧に描かれていて、良いところがたくさんあり、優劣をきめつけるのがとても難しかったです。

全体的にレベルが高く、よくまとまっていますが、入選、入賞した作品は、挿絵のような絵ではなく、読んだ本の心に残った場面や、本から受けた印象から、テーマを決めて表現していたと思います。テーマがはっきりすると何をどのように表現したいのかがはっきりしてくるので、画面構成や色彩もテーマに合ったものになり、作者の創意工夫や独創性を作品から感じるものができました。何より、読書感想画としてだけでなく一枚の絵画作品として心に残るものになっていたと思います。

最後になりましたが、入賞・入選された児童の皆さんに心からお祝い申し上げます。また、応募してくれた皆さん、これからも、たくさんの本を読み、感じたことを素直にそして思いっきり画用紙に表現して欲しいと思います。来年も素敵な作品に出合えることを楽しみにしています。

審査員氏名一覽

| | |
|--------|---------|
| 緒方 和人 | 桜ヶ丘小学校 |
| 秋岡 裕子 | 南郷小学校 |
| 江藤 徳子 | 吾田小学校 |
| 東 嘉太郎 | 社会教育指導員 |
| 湯淺 安彦 | 社会教育指導員 |
| 田上 幸雅 | 北郷小中学校 |
| 加藤 恭子 | 飫肥中学校 |
| 榎木田 文生 | 社会教育指導員 |
| 横瀬 勝彦 | 北郷小中学校 |
| 三角 順子 | 飫肥小学校 |

令和元年度
日南市読書感想文・読書感想画コンクール入賞作品集
第11集

令和元年12月発行

発行 日南市教育委員会 生涯学習課
日南市中央通1丁目9番7号

編集 日南市教育委員会 生涯学習課図書館係
日南市飢肥2丁目6番18号
電話 (0987) 25-0158